

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	方針や理念を職員の目の付くところに貼り、意識付けを行う・又会議や機会を利用して勉強会を行い 理念を共有できる様働きかけている	事業所nn愛に理念を掲示し、ミーティングや会議の中で確認しながら実践に繋げている。理念に沿った支援ができるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や子供会との関係づくりに努め 地域の祭りに出かけたり、地域の人や子供会の人々に呼びかけ、餅つき等の企画をし協力や参加を依頼している	自治会に入り、地区の行事に積極的に参加したり、施設の行事にも地域の人や子供会も参加し、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだいかしきれていないのが実情 もっともっと地域の中に出かけ地域の中で暮らす事を理解してもらう事から始める。中学校にも職場体験などの活用の依頼に行ったがまだ実現には至っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回 行政 自治委員 民生委員 包括支援センター職員 家族に参加頂き開催 状況報告 意見交換等を行い頂いた意見を施設運営サービス向上に反映するよう努めている	運営推進会議では利用者の家族全員に出席の案内を送っている。できるだけ沢山の意見を出して頂き、サービスの向上に努めている。	意見が出された内容について、どのようにサービスの向上につなげて行っているかを次回の運営推進会議で説明し、理解して頂けるように期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や報告を藤して行政との関わりを持つよう心掛けている	市の担当者とは制度解釈や利用者状況、事業所の実情について報告や相談をしながら協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は緊急やむを得ない場合を原則として、もし使用する場合は常に中止できないか 代替案はないかを検討 又、機会あるごとに学習会をおこなっている センサー使用は家族了解のもと1名使用 施錠は夜間以外は行っていない	研修会や勉強会を通じて身体拘束の具体的な内容と身体拘束の及ぼす影響について全職員が理解を深め、利用者の意向に寄り添いながら身体拘束をしないケアに積極的に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の学習会を行い理解を深め意識を高める様心掛けている。又夜間は一人になる為、不穏で対応が困難な場合 主任や管理者がサポートに入れる体制をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設の研修で行っているが今後も一層学び理解を深める取り組みを行う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時に時間をかけて十分な説明を行うと共に 年に1回家族会を行い家族の意見等を開き説明し理解 納得いただく様にしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会運営推進会議などで出た意見はノートに書き職員に伝達 検討して運営に反映させている 又玄関に意見箱を設置 定期的に開函し職員と共有し改善に努めている	家族の面会時や電話等で意見や要望を聞くように努めている。出された内容については全職員で共有し、話し合いながら運営に反映させている。家族からの相談等、話しやすい雰囲気がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体や部署ごとの会議を藤して意見をだせる工夫といつでも意見の言える関係 環境作りを心掛けている	全体や各部署等の会議を通して提案や意見を出しやすい環境にある。出された意見等は日々質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表や振り返りを時x致死予定であったがまだ 実現に至っていない為 客観的な評価基準が確立されておらず やりがいや向上心への働きかけが今後の課題である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は年間計画をたて 食医院が講師になったり 外部講師を依頼したりしておこなっている 又外部研修も積極的に参加するよう働きかけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入 各種研修会に参加し他施設の職員との講習を図る又来年度は他施設との交換実習ができればと考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居時生活歴や病歴 本人の意向 困っている事 不安な事 等を伺い得た情報を申し送りやケース記録に残し、情報を共有しケアの統一を図り信頼関係を築き一日も早く慣れて頂く様心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に細かなフェースシート作成 家族の意向困っている事 要望などを聴き いつでもだれにでも相談できる状況と関係づくりを心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず本人家族のニーズをしっかりと受け止め、目標設定しケアプランを家族と 本人と共に初期プラン作成。変化があればその都度見直し 柔軟な対応を心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の有する能力を見極め 家事活動などをともにやり ねぎらいの言葉をかけ受け身ではなく とともに助け合って暮らすもの同士としての関係を築く様心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や各種行事への参加を呼びかけ できるだけ家族も参加しやすい行事の工夫や面会時にゆっくりして頂ける様お茶を一緒にしたり リクレーションに参加していただく様 声掛けや配慮を行う		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの家具や品物アルバム等を持ち込んでもらい職員が意識して昔の話をしたり面会 外出 外泊など家族の要望に柔軟に対応 するようにしている	利用者や家族の希望を聞きながら、行ってみたい場所へ行けるよう支援している。近くのスーパーや公園に行ったり、近隣への散歩をして顔なじみの関係を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の把握を密に行い ストレスを軽減する席の配置を考慮 又作業やレクレーションでは 職員が中に入り良好な関わりが出来る様配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何らかの事情でサービスが中断 終了しても、これまでの関係を大事にし		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者が中心にいる会話や支援を行うよう心掛けている。色々な思いや不満が不穏行動を引き起こす事が多い事を理解し説得ではなく 納得できるような援助を意識を統一	利用者に対し常に寄り添い、時間をかけて話を聞き受容している。傾聴し指示は禁止している。日常生活動作が向上したことで、ヒアリハットが多くなり、職員の気づきがケアの向上につながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に 既往歴 生活歴 入所までの生活の様子 できる事出来ない事 本人ご家族の要望などを伺い基本情報「台帳を作成し職員で情報を共有する。また新しい情報などは都度 追加記録し 情報を共有する		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録に個人k六シートを使用し い日を通じて また1週間を通じての 生活や心身状態を記録 誰でも 記録を見てふつう帆状態や、状態や変化を把握できるように知っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に 本人 家族の意向を確認し、その情報をもとにサービス担当者会議を行い それぞれの気づき 意見を ケアプランに反映	家族の意向や日頃の活動の中から利用者の心身状況の変化を把握しし、職員で意見交換し柔軟かつ現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の日々の身体状況や 生活の状況が1枚の用紙で1週間を把握できる用紙を使用 この記録をもとに 介護の実践やケアプランの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の多様なニーズに応えられる様その都度協議し、柔軟に対応。またその日の天候 体調 気分で見ながら外出などにも柔軟に対応 又グループでは浴槽に浸かれない利用者もデイサービスのない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや催しに参加 地域との関わりを深め豊かな暮らしを楽しむ事が出来る支援を考えていく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族の希望を優先し主治医を決める。又、専門医(皮膚科耳鼻科など)の受診が必要な場合も家族に希望を伺う。結果や経過については密に家族へ報告	かかりつけ医は本人、家族の希望を聞き決めている。また、専門医の受診が必要な場合も家族に希望を聞き、必要に応じて職員が同行する。結果や内容については主治医と家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のかかわりの中での、情報や気づきなどその都度報告相談。嘱託医も休日や夜間何時でも対応してもらえる関係にあり、又、往診時にも細かな情報を伝え、指示を受ける等、安心して医療が受けられる体制をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時完カンファや入院時には看護師が必ず付き添い譲歩y交換を行う。また入院中は訪問し、病院関係者との情報交換を行い早期退院にむけて話し合う体制をとっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の対応についての意向を本人や家族に確認し、医療機関と連携を密にとり 状況に変化があった場合家族に説明 意思の再確認を行うなどして柔軟に対応	本人、家族に終末期の対応について説明している。これまでほぼ全員の家族が看取りを希望された。嘱託医が協力的であり、昨年も看取りを行ってきた。本人、家族の希望で柔軟に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間教育スケジュールに救急の研修sを組むと共にマニュアル作成都度注意喚起を行い実践力を身につけるようにする		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っているが地域との協力体制についてはじちいいんと相談中 来年度は実践につなげる取り組みを世T利中	毎月の訓練、年2回の昼と夜の避難訓練を行っている。火災のビデオを見て恐怖を感じ危機感を覚えた。今後も、その内容を生かした訓練をしていく。	自治会より施設の敷地を避難場所にとの声が出ている。地域との協力体制についてさらに連携を深めてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、食事の携帯時 間 入浴 の声掛けの工夫や回数等柔軟 に対応排泄に関してもプライバシーに配慮 した関わりを行い排泄に関しても出来るだけ 自立に向けた 用品の選択を常に検討、実 施につなげている	入浴や排泄の指導には誇りやプライバシー を損なわないよう声掛けを行っている。特に日 中はさりげない声掛けで排泄の自立に向け た対応を行い、排泄用品の軽減にもつながっ ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	指示 命令 禁止語は使用しない事を原則 に 依頼系で受容的な姿勢を心掛け、常に 注意喚起している。又本人の想いを十分に 聞き自己決定できる支援を心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを基本に利用者を中心に考えら れる介護を常に心がけている。介護で判断 に迷った時それが本当に利用者が望んでい る事なのか 利用者にとって良いことなのか を判断の基準にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	日常着と真意の交換は全員行っている。整 髪や髭剃りにも配慮し、洋服も同じものにな らないよう 筆筒収納の工夫 汚染時の速 やかな更衣を行う。理美容も定期的にきても らい 本人の希望のヘアスタイルで整えてい る		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	昼食のみだが炊飯を行い利用者と共に盛り 付けや片付けを行っている又時々利用者と 一緒にメニューを考え食事やおやつ作りをし ている	時々昼食のメニューや買い物を利用者と一 緒に考えながら行っている。調理の味付け等 も利用者に教えてもらっている。盛り付け、配 膳、後片付け等、出来る範囲で職員と一緒に 行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事摂取率屋印水量を記録 又、好みや形 態などを常に検討 柔軟に対応 又毎食膳 に嚥下体操を行い 食事摂取量アップや誤 嚥予防に努めている。水分摂取量が目標に 達しない場合ゼリーや好みの飲み物で対応		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	待食後自立の方には声掛け 介助が必要 な方には介助にて実施。口腔ケアの漏れ のないよう記録シートでチェック 義歯は毎 晩外し洗浄剤に浸ける		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の身体能力を見極め 出来るだけトイレで気持ちの良い排泄をを原則に常に排泄用品や排泄方法を検討。本人からの尿意便意の訴えを大事にし見過ごさないよう速やかに対応している	日中は特に自立に向けた排泄の支援を行っている。寺取り一人の排泄パターンを理解しており、自分から訴えない利用者には、添えWぞれのサインに気づくようになった。トイレでの排泄支援で排泄用品の軽減につながっている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人記録をもとに排便の回数 形態 量を把握し水分摂取や 食事などの検討を行い出来るだけ自然な形での排便を心掛けている。。また必要な場合は緩下剤の使用も医師と相談しながら行う		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1対1の入浴を基本に行っているが気の合う人同士希望があれば一緒に入浴もある。又その日の体調・気分等をを考慮し柔軟に対応している。汚染時は速やかに入浴対応、認知に起因すると思われる理由で入浴を拒否する場合は寺掛け等で	利用者の希望や体調に配慮しながら柔軟に対応している。身体状況によっては階下のデイの休みの時にリフト浴で温泉を利用し入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝時間は本人の生活習慣や思いを尊重し柔軟に対応。夜間は物音や光に十分配慮し安眠を妨げない様こころがけ定時訪室をしている。日中も本人の想いや状態を尊重し、ベッドやソファで休息がとれる様柔軟に対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の背詰所をファイルしいつでも職員が確認出来るようにしている。又薬剤変更や臨時薬についてはケースに記録し申し送り情報を共有		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味 得意な事等細かに聞き できる事 や趣味を生活に取り入れ 役割をもってもらい 楽しみややりがいを感じてもらえるような支援を心掛けている。不穏や帰宅願望がある場合もともに外出したり別の場所で休むお茶をきるなど		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や買い物 等その日の気分によって出かける等柔軟に対応 又花見や紅葉見学なども計画。今年は運動会やお祭りにも積極的に参加出来たらと思っている	希望により近隣の散歩、花見、紅葉狩り等に出かけている。花見には弁当を持参し利用者に喜ばれている。買い物の希望があれば同行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は管理できない方ばかりなので 買い物など同行した時は欲しいものを選んでもらったり 支払いをしてもらったりの支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は年賀状と一緒に書いて出す。電話は家族の了解が取れる方に関しては都度電話をかける等柔軟に対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度 湿度 換気 採光には常に配慮し出来るだけ自宅に近い状況で制することができる環境を整えている。(花を飾る 飲水は自由に)など 環境のしつらえも工夫をする葉心掛けている	共用空間はこまめな温度、湿度管理がされている。季節感が味わえる様、植物や花を飾り、思い思いに過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人と談笑したりテレビをみたりできる様ソファを設置。また、一人になりたいときは居室で過ごす等自由に行き来出来る 思い思いに過ごせる環境作りを配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し 馴染みの家具 思い出の品などを持ち込んでもらったりして、居心地良く過ごせる環境作りを心がけている	これまで使ってきた思い出の家具や品物などを持ち込んでいる。ベッドの位置等、本人の希望に合わせて、安心して過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺や介助バー ポータブルの設置等 安全に配慮しながら 残存機能を活かして できるだけ自立した生活が送れるよう支援している		